

# 今月の星空

1 月 (2026 年)

中旬 20 時頃



川口市立科学館  
Kawaguchi Science Museum

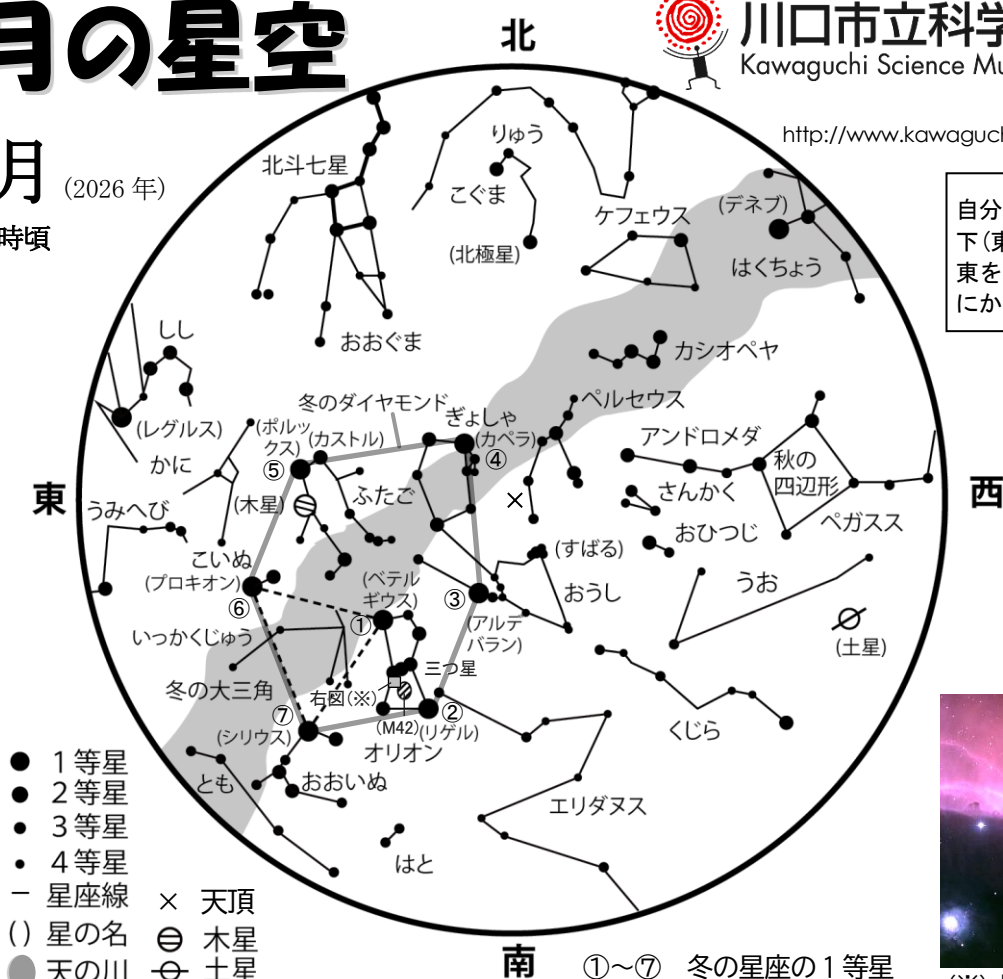


tel 048(262)8431

<http://www.kawaguchi.science.museum/>

## 星図の見方

自分が見ている方向を下(東の空を見るときは東を下)にして、頭の上にかざして見ます。



- 1 等星
- 2 等星
- 3 等星
- 4 等星
- 星座線
- ( ) 星の名
- 天の川
- × 天頂
- ⊙ 木星
- ♁ 土星

①～⑦ 冬の星座の 1 等星



(※) 馬頭星雲(オリオン座)

提供: T.A.Rector (NOIRLab/NSF/AURA) & Hubble Heritage Team(STScI/AURA/NASA)

月 齢 ○ 満月 3 日、● 下弦 11 日、● 新月 19 日、● 上弦 26 日

惑星情報 木星 夜のはじめ頃 東(ふたご座 -3 等)

土星 夜のはじめ頃 南西→西(みずがめ→うお座 1 等)

## ★2026 年は七つの冬の 1 等星めぐりから

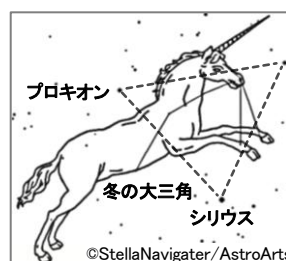
5 日に小寒、20 日に大寒を迎え、寒さの極まる季節です。澄み切った夜空には冬の星座が広がっています。冬の星座には川口市から見られる 1 等星が 7 つもあります。晴れの日が多い正月や冬休みには、「七福神めぐり」とともに、上の星図片手に「七つの冬の 1 等星めぐり」をしてみませんか。

【おすすめの観望ルート(星図参照)】…紅白の 1 等星が輝くオリオン座からスタート。目印の三つ星を見つけて、その上下にある①ベテルギウス(赤色)と②リゲル(白色)を見つけましょう。次に、三つ星の並びを西側に延ばした先、南の高いところに、おうし座の③アルデバランがあります。名所の「すばる(プレアデス星団)」に立ち寄ることをお忘れなく。そこから北の空に向かって天頂を越えると天の川のほとりに、ぎょしゃ座の④カペラ。東に下ると、ふたご座の明るい 2 つの星、⑤ポルックスとカストル(2 等)が並んでいます。今季のふたご座には、ひと際明るい木星(-3 等)があり目を引くでしょう(来季はしし座へ移る)。ここまで来たら、最後は南へ向かって、冬の大三角をつくるこいぬ座の⑥プロキオン、そして、星座をつくる星の中で最も明るいおおいて座の⑦シリウスをたどってゴールです。

## ★「午年(うまどし)」にちなんだ夜空に馬を探そう

今年の干支は午(うま)。この午などの十二支は方角や時刻を表すときに使われてきました。例えば、子(ね)は北、午は南を表し、北極と南極を結ぶ線は「子午線」と呼ばれます。また、午の刻は、昼の 12 時を中心とした約 2 時間のことで、現在でも「正午/午前/午後」の表記でおなじみです。

さて、星空に馬を探してみましょう。星座では、秋を代表する「ペガサス座」とその隣に「こうま座」(上の星図では地平線の下)があります。また、冬の大三角付近に、「いっかくじゅう(一角獣)座」があります。これは額に 1 本の角を持つ馬に似た空想上の動物「ユニコーン」がモデルです(右図)。この星座は市街地では見つけるのが難しい 4 等より暗い星しかなく、まさに幻の星座と言えます。また、オリオン座にある暗黒星雲(星図の■及び右上図参照)は、その形が馬の頭にそっくりなため、通称「馬頭星雲」と呼ばれ、よく知られた天体の 1 つです。



いっかくじゅう座